

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井 博文



■ 山陽有線放送事業を廃止します

平成 17 年 3 月の合併後も、山陽地区には有線放送が残されていました。この有線放送は、昭和 40 年代に開始された長い歴史のある事業で、放送のほか、電話やインターネットも含まれています。どれも山陽地区のみなさんの生活に溶け込んでいて、深い愛着をもって親しまれてきました。中でも、放送部門は全国でも指折りのレベルで、何度も全国規模のコンペで入賞したほどです。そして小野田市と山陽町の合併後も引き続き、本市と JA 山口宇部の共同事業として取り組んできました。

しかし、放送・電話・インターネットは、いずれも日進月歩の時代です。古い資機材や設備のままでは時代の流れについていけません。すでに故障が相次いでいますが、部品の調達も難しい状態です。さらに加入者も激減していて、市と JA 山口宇部が毎年出している補助金（それぞれ 250 万円）だけでは、到底事業が成り立たないところまで追い込まれ、職員の給料・ボーナスも満足に支払えない状況となりました。

この 1～2 年、何とか代替手段はないものかとケーブルテレビの導入の可否などいろいろ研究しましたが、新規事業の導入には、どうしても利用者の方々にかなりの額の負担をお願いせざるを得ないことから、適切な解決策を

見つけるには至りませんでした。

そうした経緯を経て、昨年 11 月、共同事業者である本市と JA 山口宇部との間で「平成 23 年 3 月末をもって有線放送事業を廃止する」ことを決定し、12 月、加入者のみなさんにその旨を通知させていただきました。その上で遅ればせながら、1 月 17 日から連夜、山陽地区の各小学校区で説明会を開催し、施設の現状や経営状況などを説明して回りました。出席者からはいろいろな質問が出ましたが、事業の廃止についておおかたの理解は得られたように思います。

利用者の“痛み”を思うと、事業の廃止は辛い決断でした。



▲ JA 山口宇部厚狭支所での説明会（1 月 21 日）

対話の日

2 月 24 日(木) 19:00 ~
津布田会館